

所属	商学部	身分	教授
氏名	原田 喜美枝		
NAME	Kimie Harada		

1. 研究課題

(和文) 金融機関の経営と為替の影響

(英文) Management of Financial Institutions and exchange rate market.

2. 研究期間

2年間

3. 研究の概要 (背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600 字程度、英文 50word 程度)

(和文)

研究の概要と目的

金融機関の経営に関しては、2008年9月に発生したリーマン・ショック以降、金融市場の混乱が世界的な経済危機に発展し、金融機関の経営不安は世界経済にとって大きな問題となった。本研究では、金融機関の経営に関する分析を行った。経営破綻は大きなインパクトをもたらすことから、破綻が事前に予測できるのかどうかを計測することがひとつの目的であった。複雑化する金融機関規制に関する分析ももうひとつの分析の柱であった。

研究計画

計画では、金融機関の経営について規制の複雑化について分析するため、銀行、証券会社について分析をおこない、その後為替市場の影響も含めて分析することとしていた。

成果

破綻金融機関に関する研究は2013年夏英文レフェリー付ジャーナルに出版された。日本語の論文は2014年4月に出版予定である。また、規制の複雑化に関しては2013年秋に所属する団体日本シャドー委員会の一員として国際シンポジウムを主催した。個人的には講演会で講演を行った。為替に関する論文はまだ進行中である。

(英文)

The global financial crisis affected the financial system and the economies over the world. This research aims at management of financial institutions because bankruptcy of financial crisis brings huge impacts on the economy. Examining predictive power of bank failure is one of main objective and consideration of ongoing complicated financial regulation is another purpose for my research. A papers has published and another paper is going to be published soon.

4. おもな発表論文等 (予定を含む)

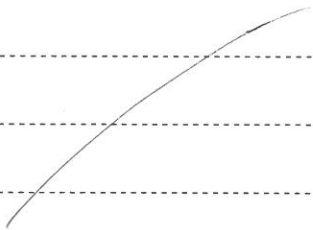
【学術論文】(著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月)

Kimie Harada, Takatoshi Ito, and Shuhei Takahashi
"Is the Distance to Default a Good Measure in
Predicting Bank Failures? Case Studies."
Japan and the World Economy Vol. 27.
2013, August. page 70-82.

【学会発表】(発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月)

学会発表の件は「講演会」にて発表し、
『証券レビュー』日本証券経済研究所
7-2「G20-バリス対金融規制改革の影響分析」

【図書】(著者名、出版社名、書名、刊行年)



10th Joint Meeting of Shanghai
Financial Regulatory Commission

【その他】(知的財産権、ニュースリリース等)

国際シンポジウムを主催

2013年10月26日(28)に於て。7-2「Regulatory reforms after
共同政策提言を以てして the global financial crisis,
提言4件「Misdiagnosis of Crisis has led to Botched
Liquidity Regulation」

学術論文

原田喜美枝、鯉濱賢、櫻川昌哉、星岳雄、細野薫

「世界金融危機と日本の金融システム」『金融経済研究』

株式会社経済新報社 2014年4月予定